

# 仙丈岳地蔵尾根

後藤 隆徳

●仙丈岳地蔵尾根〜仙丈岳〜北沢峠〜甲斐駒ヶ岳〜黒戸尾根

▽79年12月30日〜80年1月1日

▽C.L後藤隆徳(32) 毛利哲也

(46)

「とりくみ」

1、79年総会で冬山合宿を仙丈岳周辺で行うことを決定した。

2、10月杉山 達、小川広太郎計画書作成した。

3、11月2日〜3日に後藤、毛利地蔵尾根の偵察と荷上げを行う。

4、12月9日〜10日に後藤、毛利杉山、榊原、土佐は富士山吉田大沢で雪上訓練を行った。

5、12月30日杉澤、杉澤好子は車で後藤、毛利のサポートを行った。

12月30日(晴)  
へタイム▽下土狩8:00〜甲府10:00〜一の瀬13:00〜林道終点14:00(泊)

毛利と納米里の森永牛乳の前で8時に待合させた。回送役の杉澤も2人でやってきた。毛利は開口一番コツヘルを工場に忘れてきた

少し暖かいのが気になった。

12月31日(曇のち風雪)

へタイム▽起床3:00〜出発6:00〜デポ地点11:00〜仙丈岳15:00〜北沢峠17:00(泊)

昨夜は暖かく良く休めた。ただ、ちょっと頭が重たかったのはオールドが空になったせいらしい。朝食を済ませ出発する。雪は踝位だった。氣象庁のロボット測量所を過ぎた頃より不気味な雲が空全体に速い速度で流れ始めた。

松峰の途中にテントが1張あったので声を掛ける。単独の男だった。彼は昨日一ノ瀬から登ってきたと言った。僕達が入山した時、降りてきたタクシーがそのようだ。松峰を巻きコルに着くと、そこには意外にも松峰小屋が見えた。意外というのは秋の偵察の時どうしても見つからなかったからだ。林道終点から2時間なら昨日ここまで来たかと思った。

9時になり北沢峠と交信を試みるが三島芳山のは入感しなかった。荷上げ品の場所に着いたのは11時だった。ここは2400m。計画ではここで幕営になっている。荷上げ品を出しながら今後のことを相談する。天気は最悪で雪も

降ってきた。

私はここで幕営したかったが、毛利はいつになく積極的で、「今日中に北沢峠に行き、皆と合流したい」と言う。しかし、ここからでは登り3時間、下り2時間の5時間は掛るだろう。天気が上り坂なら良いが、下り坂では考えてしまふ。だが、私は毛利に反対はせず「とにかく森林限界まで行って様子を見てみましょう」と告げた。

岳樺の中を深いラッセルで進むと2600m付近の森林限界に達した。これから先は岩と氷の世界である。もう一度毛利に「行きますか」と問いかける。私も止めようと思いが出来なかった。こういう中途半端な行動は危険だった。結局迷ったが行く事をきめた。もう引き返す事は出来ない。絶対に北沢峠まで行くのだ。

時計は13時を指していた。時間的にはギリギリであった。あと30分も遅ければここに留まったであろう。岩稜に出ると猛烈な風が吹きまくってくる。時々体が浮き風に持っていかれそうになる。1時間程登った。顔にビシビシ当たる風雪が痛かった。毛利がやや遅れ気味になり私は時々立ち止まって待つ。時計は14時を回りあたりは

何となく薄暗くなってきた。少し

降は神経を使った。暗くなってきた

もう一度北沢峠を呼ぶがやはり

腹に入った。2人だけの冬山だっ